

# 徳川みらい学会第4回講演会



## 徳川が創り上げた『江戸システム』の価値

作家・歴史評論家 原田伊織氏



徳川みらい学会第4回講演会を10月20日(金)、しずぎんホール「エーフォニア」で開催。作家の原田伊織氏が講演しました。講演要旨は次の通り。  
(文責・企画広報室)

### 明治維新は過ちだった

今日は、明治維新にふれつつ、江戸の価値をお話ししたい。明治維新は、私たち大和民族にとって、過ちではなかったかという私なりの問題提起です。どこが誤っているのか。4つだけ申し上げます。

徳川300年弱の歴史と伝統を全否定した。明治政府のお雇い外国人のベルツ博士は、明治の日本人が「自分たちには歴史はありません。江戸期は野蛮でした。私たちの歴史はここから始まるのです」と言ったことに怒っています。明治以降の教育は、これを実践した面がありました。私たちは江戸期の真の姿を意外に知りません。

太古の昔に復古すると言いつつ、文明開化という西洋の模倣主義に走ってしまいました。長州も薩摩も戊辰戦争の前からイギリスの支援を受けていたので、これは自然な流れでした。

徳川幕府を倒した後にどんな国をつくるかというグランドデザインを全く持っていないでした。佐賀藩の大隈重信は「我々がやっていることは、小栗(幕臣小栗上野介忠順)の模倣にすぎない」と言っています。薩摩、長州は、関ヶ原の怨念で倒幕に走りました。

天皇の政治利用と官民の癒着は、明治新政府から始まっています。地方官に任命された者は、自分たちが徳川期の大名に取って代わったような錯覚に陥っています。

そういうスタートを切って、どうなったか。第二次世界大戦太平洋戦線に強引につこんでいき、大和民族として初めて、異民族に国家を占領される事態をもたらしました。この

150年を過ちと言わずして、どう表現するのか。

しかし、その実態は一般にほとんど伝わっていません。学校教育が官軍教育として展開されてきたからです。

徳川幕府が安全保障の観点から閉鎖体制をとったこと、武家の「尊皇佐幕」意識が朝廷と戦わない「恭順」の動きとなったこと、イギリス、アメリカの日本侵略を防いだのは徳川の幕臣であること、倒幕軍がテロリズムを繰り広げたことを隠蔽しました。

### 日本の伝統文化は江戸期に完成

江戸期は閉鎖体制をとることによって、精神文化から自然科学に至るまでオリジナリティが育ち、高度な江戸文明が発達しました。

江戸期は教育投資が盛んで、識字率は世界一の75%。街道の伝馬制では受け書、送り書と何枚もの文書が

必要でした。和算(数学)、建築・土木の技術レベルは非常に高かった。

日本の伝統文化は江戸期に完成しています。能、狂言、歌舞伎、浄瑠璃などの芸能、武家の作法、組織と和を尊重する精神文化が完成し、倫理感が強くなりました。

イザベラ・バードは日本を旅して、日本人の清潔さ、親切さ、邪心のないさに感動しています。

自分たちも自然の一部であるという考え方は、森林を管理し、人糞を肥料として利用し、江戸期の循環システムを作り上げました。

### 平和を政治の根底に置いた家康

265年にわたって、一度も戦争をしませんでした。元和に改元した1615年、家康と秀忠は「徳川の治世では戦争はしない」という時代のコンセプトを打ち出しました。

これは、徳川が一番誇っていることだと思います。平和が一番大事。その上で何をするか。身分制はありませんでしたが、融通が利きました。

明治は、江戸の遺産で成り立っていました。それを遺したのは、どうやったら平和を維持できるかという徳川治世のプライドです。平和を政治の根底に置いて考えた政権は珍しい。おおいに誇られていいのではないのでしょうか。

個人・法人会員を随時募集しています。皆さまのご入会をお待ちしております。

〈お問い合わせ〉 徳川みらい学会事務局 〈TEL〉 284-9660 〈HP〉 [徳川みらい学会](#) [検索](#)